

平成 20 年度日本認知症ケア学会・読売認知症ケア賞「奨励賞」



奥田俊夫, 奥田真美 (おくだ としお, おくだ まみ)
特定非営利活動法人みんなの家



【授賞理由】

貴殿が取り組んできた認知症や体力が衰えて自分のことが語れなくなったお年寄りの往年の日々を紙芝居にして誕生日に上演するという活動は、利用者の乏しくなった感情を引き出すとともに利用者を理解する究極の手段ともいえるものです。

これらの活動は、認知症ケア賞（功労賞）受賞が相応しいといえます。

【略歴（奥田俊夫）】

1985年 2月～1988年 2月	農業生産法人蒼生舎
1988年 3月～1990年 9月	自然農法農場グリーン・ファーム
1990年 10月～1999年 3月	南伊豆町内の農家等にてアルバイト
1997年 4月～1999年 3月	京都福祉専門学校

【略歴（奥田真美）】

1986年 4月～1988年 3月	ライオン株式会社研究開発部
1988年 3月～1989年 3月	東大病院老人科第2研究室
1990年 2月～1993年 3月	高齢者在宅サービスセンターフレンスケアセンター
2002年 9月～現在	NPO 法人みんなの家

【みんなの家における『人生紙芝居』の取り組み】

1. はじめに

NPO 法人みんなの家は、1999年に設立され、現在は介護保険のデイサービスと、自主事業としてのお泊りや訪問などを行う“宅老所”として活動している。デイの定員は1日10名。古い民家を使い、家庭的な雰囲気の中で、利用者各人の「その人らしさ」を大切にしたケアを心がけています。利用者は90歳前後の方が中心で、ほとんどが認知症を抱えています。

2. 誕生日会にその人が主人公になった創作紙芝居を製作・上演

みんなの家では、利用者の誕生日会に、その人が主人公になった『人生紙芝居』を上演して祝います。それに向けて、1ヶ月前から紙芝居を作り始めます。色塗り作業など、皆が出来る部分は大いに手伝ってもらいます。要介護状になってから、デイサービスという場で出会う私達なので、その方が第一線で活躍していた頃の姿を知らないまま、目の前の容姿や言動で相手を理解しがちです。そこで、人生紙芝居を職員・利用者会員で作りながら、「大変な人生だったのですね」「あんた、幸せだったね」などと、その人の80年90年という全人生を理解し認めることに重要な意味があります。このことを私達は“人生かみしばいで、人生かみしめ合い”というキャッチコピーにしました。

3. 具体的な製作手順

人生紙芝居の具体的な製作手順は次の通りです。

- 1) 本人・家族から、その方の人生についての聴き取りを2～3時間行う。
- 2) ストーリーを考え、コマ割りを決める。
- 3) 画用紙に鉛筆で下絵を書く。
- 4) 絵の具で色を塗る。(利用者も参加。背景部分などを塗ってもらう)
- 5) 筆ペンで縁取りをする。
- 6) 仕上がった画用紙を台紙に貼る。(利用者も参加)
- 7) 台紙の裏に台詞を書く。

1) の聴き取りは、できるだけご利用者宅で行います。昔のアルバムがあれば、一層聴き取りが深まります。2～3時間かけて事実を聴き取るとともに、そこに流れている家族愛やその方の誇りの高さなど、言語化されていない感情部分を汲み取るように心がけています。戦争や当地の昔の基幹産業など、知識として備えておかなければならないことも多く、ストーリー化の前に、図書館に行って郷土史を調べたり、インターネットで検索したり、勉強が必要ですが、これも今後のケアに大変役立ちます。

4) の色塗りは利用者皆で楽しく進める作業です。白内障など視力が衰えたお年寄りに配慮し、コントラストのはっきりした色調で、伝えたいことだけを描いていくので、絵よりは漫画に近い仕上がりになります。

4. 成果

自分が主人公の人生紙芝居が皆の前で上演されると、ご本人はとても喜びます。ご家族も「我が家の家宝」などと喜んでくれています。認知症が中等度の方でも、シンプルに描かれた絵を見ることで「(魚捕りは)よくやったよ。目の前が海だから」と自ら語り始めたりします。認知症が重度で、会話が成立せず、繰り返し動作の中にいる方でも、自分の人生紙芝居が始まると舞台を注視し、同じ場面(夫が救急車で運ばれるシーン)でいつも涙をこぼします。

認知症を生きる方々が、たとえ一瞬でも、人生紙芝居を通して、これまでの自分の人生を再確認し、心の安定や自尊心を回復することができ、また、周囲の人たちとの良好な関係も生まれる効果があります。

さらに、紙芝居は持ち運びが容易なので、利用者とともに地域の幼稚園や小学校を訪問し、人生紙芝居を上演しています。特に、戦争中の大変な生活状況などを子供たちが知る機会をなり、平和教育の一環としても、教育現場から大変好評を得ております。